

中京女子大学

同窓会ニュース

1984・8・1 No.5

■発行 中京女子大学同窓会

〒474 愛知県大府市横根町名高山55

TEL 0562-46-1291

目	次
同窓会役員会報告……………1	意欲的に活動している同窓生だより……………4
59年度活動方針……………1	教職員の動向……………6
総会についてのお知らせ……………1	施設についてのお知らせ……………6
新会員の活躍状況……………2	同窓会会員名簿発行のお知らせ……………8
級友と時の流れを語る（同期会報告）……………3	

同窓会役員会報告

役員会は1ヶ月に1回実施しております。報告事項をここで簡単にご報告させていただきます。

1. 第5回中京女子大学同窓会総会において、会則、第4条 1. 正会員についての改正要望がありました。その結果、役員に委任されましたので、その後検討し、下記のように改正致しました。

第4条

1. 正会員、中京女子大学および中京女子短期大学の卒業生。

〈改定〉

1. 正会員、中京女子大学および中京女子短期大学部（中京高等女学校家事体操専攻科・中京高等女学校家事裁縫専攻科を始め本校の前身と認められる科を含む。）卒業生ならびに卒業生に準ずる者。

2. さる4月7日「なでして同窓会」から、中京女子大学同窓会へ運営費の補助として、20万円の小切手

が高橋千予子会長にわたされました。大学独自の手で同窓会が運営されたのは昭和53年からであり、それ以前は「なでして同窓会」として運営されてきました。大学の同窓会運営費は、52年度以後の卒業生ならびにそれ以前の卒業生（入会手続完了の方）の費用で、運営されてきました。大学同窓会としては、多くの卒業生をかかえ、同窓会の会報・通信費・名簿作成等で費用がかさむ今日です。なでして同窓会からの運営費補助をあらかじめおくことに致しました。

59年度活動方針

- 1) 同窓会ニュース第5号の発行
- 2) 会員名簿発行
- 3) 第6回同窓会総会の開催
- 4) 同窓会活動のあり方について
- 5) 今後の展望について

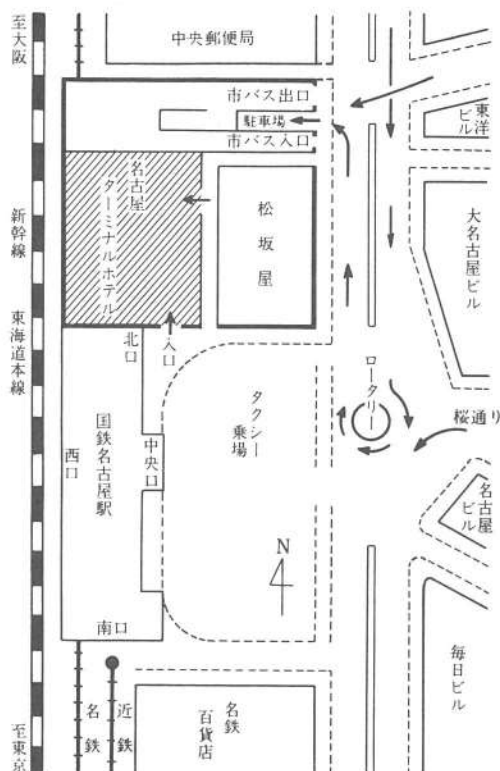
総会についてのお知らせ

第6回総会が、9月16日（日）に開催されることになりました。2年に1回の総会であり、皆様おさそいあわせのうえ、ご出席下さい。また総会后、同

期会なども企画され、皆様との親睦を計画されては
いかげでしょうか。

期日 59年9月16日(日)
時間 13時～(2時間ぐらゐの予定)
場所 名古屋ターミナルホテル
〒450 名古屋市中村区名駅1丁目
1番地2号
TEL (052) 561-3751
会費 1,000円

会場案内図



新会員を迎えて

昭和58年度新会員数

体育学部	体育学科	115名
家政学部	児童学科	106名
"	食品・栄養学科	12名
短期大学部	体育学科	114名
"	家政学科	34名
計		381名

新会員の活躍状況

平塚市立金旭中学校勤務

西野真弓

(体育学部体育学科卒)



現在、平塚市立金旭中学校で教員として勤務しています。生徒数450人からなるマンモス校ですが、北に丹沢、西に箱根山・富士山を眺め、近くには花水川が流れ、のどかな環境に恵まれており、素直な生徒ばかりです。

勤め始めてやっと1ヶ月が過ぎたばかりで、まだ右も左もわからず、私自身、教える事よりも教えられる事の方が毎日です。

スポーツが盛んな学校なので、体育の教師に寄せられる期待も多く、それに答えられるか不安でなりません。しかし、今年1年間は、いろいろな経験をし、失敗をおそれず、生徒と一緒に勉強をしていく気持ちで、何事にもチャレンジしていくつもりです。現在は、不安と希望が入り混り、複雑な気持ちですが1日1日を大切にがんばっていきたいと思います。

最後になりましたが、母校の発展をお祈り致します。

仔羊幼稚園勤務

小久保孝子

(家政学科児童学科卒)



現在、豊橋市の仔羊幼稚園に勤めています。この仔羊幼稚園には、2才児研究クラスというのが2クラス設置されており、私はその1クラス14名の担任をしています。すでに1カ月たちましたが、あっという間の1カ月でした。4月初めの入園当初は、泣き叫ぶ子ばかりで静かな時がないほどでした。そんな中で排泄のしつけから食事、帰りのバスに至るまで何もわからない2才児14名を1人で見るのは、とても大変なことでした。おもらしのかたづけ、部屋

を出て行ってしまふ子との追っかけて、それだけで1日が過ぎてしまうようなあわただしい日々でした。

5月に入り、私自身、幼稚園の生活になれると共に子ども達も園生活になれてきて、少しずつ変化が現われています。最近では1カ月でこんなにも成長するものかと目をみはることもしばしばです。今はこの子ども達の成長を楽しみに、子ども達に負けないう私自身も成長し、よい教師となれるようがんばっていきたいと思っています。

級友と時の流れを語る

同期会報告

梅の会からのたより

河合きく

(昭和38年度短期大学部家政学科卒業生の同期会)



第18回梅の会が5月27日(日)に名古屋の木曾路路店で開催されました。これは昭和38年度の短期大学家政科の卒業生102名が、当時、家政学科長の故梅本あき先生の名前をとって名付けたものです。卒業して20年も経ちましたが、その間2回のお休みを除き、これまで活動を続けてこられた熱意には敬服いたします。今回は、西宮市から初めて来られた1名を含め、ほとんど県内の方ですが、18名出席されました。会員には卒業と同時に、高校、中・小学校の教員になられた方が4~5名おられ、今後の活躍が期待されます。

会の運営は、幹事2~3名で交替で引き継ぎ、会場の選定、会員への通信などにあたり、出席数を気遣いながら、電話で呼び掛けをするなど、幹事のご苦労も大変なことと思います。会員の住所録は毎年

整理されて、今回も新しいものが、会場で配布されました。私の所にも毎年送って下さいます。

梅本先生の長い病気療養期間中には、四日市の自宅を何回も訪問して、お見舞すると共に会のスナップ写真を持参して、会員の動向を報告するなど、温かい心遣いには、先生も大変に喜んでおられました。

昭和38年は、中京女子大学新設の時期にあたり、文部省の審査を受けるため、学生達が天府の新校舎の清掃作業や、東新町の短大校舎から、機械・器具、図書を運搬する作業に協力したこと。また、2年生の9月初旬に、白いブラウスに黒いスーツの制服姿で、ほとんど全員参加した北海道旅行では、青森まで夜行列車に乗ったことなど、学生時代の思い出話は尽きませんでした。

53年5月に梅本先生は他界されましたが、私も、この会には出来るだけ出席させて頂き、母校の発展の現状を、同窓生の方々に報告していきたいと思っています。これからも皆さん方の親睦の会として、益々発展されますように願っております。

昭和32年度短期大学部家政科 卒業生の同期会だより

木村ミエ(旧姓 天野)
伊藤千穂子(旧姓 白鳥)

(昭和32年度短期大学部家政学科卒業生の同期会)



風薫る、5月20日(日)大府市内、中国料理店「方宝来」に於て、昭和32年度家政学科第7回卒業生クラス会を楽しく行いました。

長い間、音信不通のため、住所の把握に苦労しました。実家にお電話をして稼ぎ先をお聞きしたり、再度案内状を送っても返送され、再々郵便局のお世話になり、最後まで連絡がとれず残念な思いも致しました。

卒業直後に第1回、第2回と連続してのクラス会

以来、20数年ぶりの懐かしい顔、顔、顔……。顔を
を会わせた瞬間に26年間のタイムトンネルを通り抜
けて、学生時代にもどり、旧姓を呼び合い、お互い
の近況を話し、交流を深めることができました。

級友は北海道、四国、九州、ブラジルと広くひろ
がっており、出席者15名も名古屋市内を中心に愛知
県内が半数、岐阜、三重、滋賀、静岡、徳島と遠方
より集まりました。

やはり50才に手のとどく人々、話題も自然に顔の
しわを気にする事、お腹の脂肪を気にする話、娘を
嫁がせ喜びと淋しさを話す人、また、「ハイ」「ハイ」
と元気に挙手をして白髪染をしている人の数を確か
めたりしている人、ご主人、子供、家族のことと、
話の花は満開でした。

卒業は同じでも、その人生は様々……。最後に
お店の好意に依り、マイクロバスにて母校訪問、各
々の学生時代を思い浮かべ、大きく発展した母校を
喜び合いました。

恩師梅本あき先生、級友1人が死去されて残念で
すが、今回は岐阜県の方に当番をお願いし、またの
再会を約束して、国鉄共和駅にて散会しました。

母校の発展と同窓会の皆様のご健康とご活躍を心よ
りお祈りします。



意欲的に活動している 同窓生だより

大阪体育大学勤務

中島美智子

(昭和54年度 体育学部体育学科卒)



昭和58年4月に大阪体育大学へ就職し、2年目を
迎えました。学生時代から思いがけてきたダンス

の研究に携わることができ、全く夢のようです。本
学は、体育専門の単科大学で、1学年約400名で、
うち男子300名、女子400名、全学で約1,800名の学
生がいます。本学のダンスカリキュラムは、女子1、
2年生が必修、3年生が男女共選択で、昨年より男
子の履修者も出てきて、昨今のダンスに対する意識
の変貌が伺えます。4年生では、ダンスエクササイ
ズと称して、創作ダンスに限らず広域にわたったダ
ンス(エアロビックダンス、ジャギー、ジャズダ
ンスなど)を学習できるようになっています。本年私
は、1・2年生のダンスと3・4年のゼミを担当して
います。必修のダンスについては、身体という我々
に最も密接な関係をもつ表現素材をみつめ直し、我
々の内にひそむ感性を引き出すことを通し、表現す
るという体験が十分に味わえることを第一の目的と
考え、授業を進めています。教える対象が、体育と
いう自分の専攻と同じであることで学生の気持ちが
よくわかる反面、何事にもきびしい要求をしてしま
いがちです。授業、クラブさらに学外でのスキー、
水泳、キャンプ実習と種々な体験に加え、学内外で
の縦、横の人間関係の中で一生懸命成長しようとし
ている学生を見るにつけ、母校での自分の姿を思い
出します。そして、時には友として、同じ学問を学
ぶ一学徒として、また教師として、臨機応変に学生
と接しています。クラブは、創作ダンス部のコーチ
として年一回の単独公演、関西学生舞踊連盟の合同
発表会などの舞台活動をめざし、基礎を大切に、
学生1人1人の個性を伸々と発揮できるように心が
け指導にあたっています。

研究は、ダンスに関するテーマと体育心理に関す
るテーマについて進めています。

大学在学中に学んだ専門を生かせる職場で仕事が
できることを嬉しく思うと同時に、恩師の先生方の
暖かい御指導に厚く感謝いたしております。

最後になりましたが、母校の益々の発展を心より
お祈りいたしております。

有松幼稚園経営

矢野しずい

(昭和48年度 家政学部児童学科卒)

卒業して11年目になります。しかし、人生経験は
51年になります。いい年になったものです。でも、

気分は若いのです。

昭和39年に幼稚園を創設して、20年経ちました。その間、多くの園児に接しました。なかでも、大変印象に残っているのは、情緒障害児の男の子(3才)です。レコード、絵本、テレビだけを与えられるだけで、親子の対話が全くない状態で育てられたために、入園時でも「お父さん」、「お母さん」、「パン」も言えない状態でした。しいて言えるのは「ストッキング」という言葉だけでした。それは、母親の傍に行くと「ストッキングにさわらないで。」とよく言われたからだそうです。当初はこのようでしたが、入園後、1年間で会話ができるようになり、また字も48字を書けるまでに成長しました。

私の経験から子供はほめて教育するとか言いますがほめるにもそのほめ方があると思われまます。からほめではだめなのです。また怒る場合でも怒り方が大切で、愛情のある怒り方でなければなりません。愛情をもってねばり強く接することが子供の教育に一番大切なことだと思います。

現在、園児数180名、職員11名です。幼稚園の建物も昨年4月改築工事に着工、本年1月8日に竣工いたしました。総工費1億2千万円。園児、教諭、父母ともに喜んでおります。

長男は駒沢大学の佛教学部を卒業して、永平寺で1年半修行し、有松学園に就職して半年になります。次期祇園寺住職であり、有松学園の園長となるのですが、まだ独身です。お嫁さんは、私の母校である中京女子大学から是非と考えておるしだいです。

石川県立ろう学校勤務

竹居 外茂子 (旧姓 林)

(昭和46年度

家政学部食品・栄養学科卒)



卒業して、はや13年めを迎えています。その間、肢体不自由児養護学校、全日制普通高校、そして現在は、県立ろう学校の家庭科教師として勤めています。

多くの生徒と出会い、また別れて来ました。障害を持った生徒たちの前では、人間てなんだろう。生きていってなんだろうと、つねに私の心の中への問いかけがありました。また、普通高校の生徒たちとは、純粋な高校生の気質に触れ、本音で話し合い、若い心を知りました。今言われている怠慢な生徒、

非行の生徒が全然いなかったわけではありません。こちらが、がんばればがんばるほど、心を閉ざしてしまう生徒にも会いました。生徒が笑ったら、一緒に笑い、喜び、生徒が泣けば、一緒に泣き、悲しんでいます。

今でも、心の中には、学生時代の4年間の思い出が鮮やかに浮かびあがってきます。良き先輩、同輩に恵まれ、毎日が充実していたようです。

忘れもしない教員採用試験の作文に、「道」という題がありました。弓道との出会いがあったから、迷わずその作文を書くことができました。もう1つ忘れられないのが卒業論文の研究です。とても厳しい先生の下での毎日、真理を追求する厳しさと困難さを知りました。時間も忘れとりくみました。

昨年、久しぶりに母校を訪ね、立派な図書館にたいへん驚きました。私たちが学生のころは、将来への不安などで心寂しい思いもしましたが、立派な施設・設備も着々と整い、他大学に負けないほどに充実したように感じました。そして、あのころを思い出し、先生にお会いしたり、友達とも語り、気分も新たに、なんだか力がわいてきたような気持ちで、金沢に帰って来ました。

これから先、石川県内にも本学出身の教師仲間が増えるよう願っています。

最後になりましたが、母校の発展をお祈りいたします。

多治見西高等学校勤務

竹尾 紀代子 (旧姓 勝野)

(昭和37年度

短期大学部家政学科卒)



現在、多治見西高等学校の教員として勤務しております。教員生活21年目になり、新ためて初心に帰り、歩み始めたところです。

私の勤務校は、被服科、商業科、音楽科、普通科螢雪科(男子が主)からなる女子が大半をしめる高校です。そこで家庭一般、手芸、保育、保健、クラブは華道部を担当しております。また、1年生被服科のホームルーム担任もしております。担任は3ケ年もちあがりのことが多いので、私の短所が影響しない様に指導には心がけておりますが、なかなか理想通りにはまいません。

私が教職についたときは、戦後のベビーブームの

子供たちが入学した時で学校も一挙に生徒数が増加したために、私のような未熟なものを、採用していただきました。最初、3年くらい勤めさせてもらう気持ちでしたが、月日の過ぎるのは早いものです。

この20年間には、いろいろ貴重な体験をしました。勤めるかたわら、高二普免の資格を取得したいと思っておりましたが、クラブの顧問、結婚、育児となかなか時間がとれず、昭和46年から夏休みを利用し、岐阜県の認定講習を振り出しに愛知、三重、兵庫、仙台と出かけ毎年2単位ずつ必要教科の単位修得をすることに飛びまわりました。また、昭和53年には必要科目の家庭科教育法と被服実習の単位を修得するために、勤務しながら通学可能な名古屋女子大学へ聴講生として半年勉強に行きました。

家庭に戻ると母親に変身を子供の相手。夜9時には自分の勉強、宿題を計画していると、子供が熱を出すことがあったりして、あわてて病院へ。子供とベビー毛布、教科書、レポート用紙を持参していきましました。そして診察をしていただくのを待つ間に片方に子供を寝かせ、片ひざでレポートを書くといったことがよくありました。免許取得までに約8年も費やしてしまいましたが、その間、岐大、名古屋市大、神戸大、東北大、三重大学、三重短大、名古屋女子大等の先生方から講義や実習が受けられたことは、私にとってとても有意義なことであり、充実した毎日を過ごすことができました。また、教師としても少しは成長したものと思います。

今から考えますと、始めのころの授業内容の乏しさを反省しています。初心を忘れず今後も努力して社会や家庭に順応できる生徒を指導できますように経験を生かし、生徒と父兄の協力を得て成果をあげていきたいと思っております。

同高校には同級生の有賀千津（千鶴子）さんも家庭科教師として活躍されておられます。

母校の益々の発展をお祈り致します。

教職員の動向

<新任>

- 月山 秀夫（英語） 一般教育 教授
（昭和59年4月1日付）
- 池田 昭（教材社会） 家政学部児童学科助教授
（昭和59年4月1日付）
- 中尾 初生（健康管理） 体育学部 客員教授
（昭和59年4月1日付）

- 新村 洋史（法学） 一般教育 助教授
（昭和59年4月1日付）
 - 高橋 正教（社会教育概論） 家政学部児童学科講師
（昭和59年4月1日付）
 - 大石 浩茂（教務課）
（昭和59年4月1日付）
 - 二宮 智子（教務課）
（昭和59年4月1日付）
 - 大野 宏之（図書館）
（昭和59年4月1日付）
- なお、58年度、退職者はありませんでした。

昭和60年度

入試日程のお知らせ

区分	出願期日	試験日	試験場
推薦選考	59年11月1日(木) ～11月30日(金)	12月9日(日) 9:00～16:00	本学
試験 選考	1次 募集	60年1月10日(木) ～1月25日(金)	本学 地方
	2次 募集	60年2月25日(月) ～3月7日(木)	本学

なお、本学を希望される方がありましたら、よろしくご指導下さいますようお願い致します。

施設についてのお知らせ

コミュニケーションセンターの開館

元来、学問の府である大学は、そこに属する各人が、互いに立場の違い、環境や文化、思想の違い、世代の違いを超えて意見を交換しながら、自らの知性と良識を磨く場であります。もちろん、それは教室における教師と学生間のコミュニケーションに限られたものではなく、優れた先人達や、全世界に散らばる秀でた知性とコミュニケーションは、いつの時代にも大きな重要性を占めてきたと考えられます。そして、その中心的な役割を担ってきたのが図書館であると思うのです。情報過多と言われ、教育が、詰め込み主義の弊害によって単なる知識の一方通行に終始していると言われる今日、もう一度原点に立戻って、大学における本来の意味でのコミュニケーションを見つめ直してみたいと切望します。新図書館に与えられた、「コミュニケーションセンター」という名称には、このような私共の期待が込められ

ています。

コミュニケーションセンターに課せられた任務は従来の図書館に課せられていたものを大きく超えるものと思います。開館を機に、学内でのコミュニケーションが活性化することはもとより、学外とのコミュニケーションが飛躍的に活発化すると期待しております。従来から行われてきました公開講座に加えて、学外からの講師や研究員も加えた研究所を発足させ、多くの新しいプロジェクトを打ち出していきたいと思っています。社会あつての大学であることを

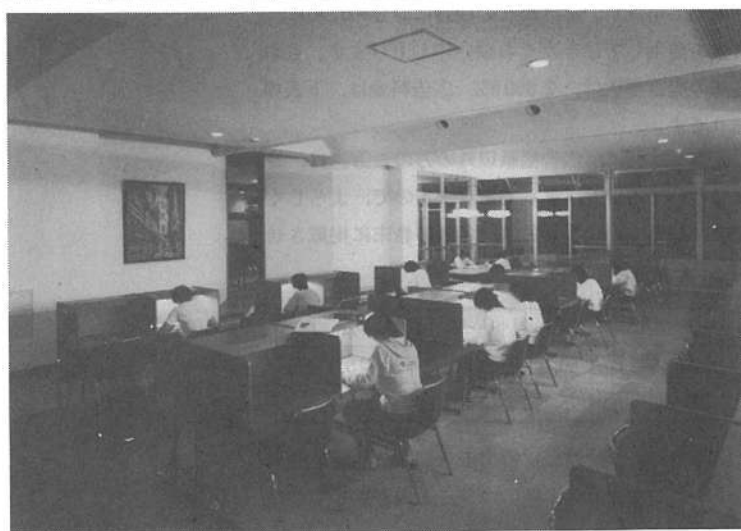
忘れることなく、大学が社会に果す役割を真剣に検討し、地域社会との連帯には、できる限りの力を注いで、社会の期待に応え得る大学作りをしていきたいと思っています。

中京女子大学コミュニケーションセンター開館にあたってより

(学長 谷岡 太郎)



コミュニケーションセンター
全景



閲覧室

同窓会会員名簿発行のお知らせ

1. 購入予約者の代金振込みについて

☆名簿の予約売価 1,000 円。申込みは、振替で。

☆名簿の発行は、昭和60年3月末の予定です。

このたび、中京女子大学同窓会名簿を発行することになりました。申込みは、全て振替による前納予約制といたしますので、ご了承下さい。なお、この後、少なくとも5年間は、総合的な名簿は、発行いたしませんので、是非、この機会に購入していただきますようお願いいたします。

振替用紙の裏に送付先の住所をお書き下さい。そのまま貼付けますので、楷書で正しくお書き下さい。

予約申込みの受付は、59年9月20日までですが、できるだけ、早くお振込み下さい。

2. 住所不明者の調査、広告などについて

名簿発行にとって、最も困難な問題は、現在消息不明である会員についての調査が、ほとんど不可能なことです。一人でも消息不明の会員をなくすために、どうか皆様のご協力をお願いします。ご存知の友人、知人の消息をお知らせ頂きたいと思えます。(同封のハガキをご利用下さい。)

また、名簿発行のための調査、編集、印刷には、莫大な費用が、かかりますので、名簿の予約販売だけでは、まかなうことができません。そこで、広告を求めています。どうかこの機会にPRのために、広告を提供して頂きたくお願い申し上げます。なお、名簿の発行部数は、2,000部、広告料金は、下表の通りです。

広告とは別に、広告掲載以外の方のご芳志は、賛助金という名目で、承っておりますので、よろしくお願いします。(ご芳名は、名簿の巻末に掲載させていただきます。)

広告区分	1 頁	½ 頁	¼ 頁
一般広告頁	50,000円	30,000円	15,000円
賛 助 金	1口 10,000円		

広告主および賛助金ご協力の方には、名簿を無料進呈いたします。(1件につき、1冊とさせていただきます。)

〒474 大府市横根町名高山55

中京女子大学同窓会

お問い合わせ ☎ 0562-46-1291

郵便振替口座番号 名古屋 9-6974

3. 領 収 書

振り込まれた際の払込票は、大切に保存して下さい。こちらから、改めて領収書は、発行しませんので、その払込票が、領収書となります。

昭和60年5月中に、お手許に届くよう、書籍小包便で、発送いたします。



編集後記

お忙しいなか、第5号に原稿をお寄せ下さいました皆様どうもありがとうございました。これからもご意見、ご希望お便りをどんどんお寄せ下さい。また、母校にもお気軽にお立寄り下さい。お待ちいたしております。